

アジア物性材料

高純度セレン販売堅調

14年1割増 医療需要を捕捉

レアメタル・回収精製のアジア物性材料（本社＝横浜市緑区、水野光男社長）は、13年1月に稼働を開始したいわき工場（福島県）での高純度セレン事業が堅調に推移している。高純度セレンの販売量は13年の約30％から、14年は1割増加した。現在はユーザーの品質認証を順次取得している段階で、15年はさらに1～2割の販売増を目指す。

高効率太陽電池にも照準

いわき工場の生産能力は本社工場と同じ月産5ト。現在は受注生産を行うが、両者合計では最大月産15トまで引き上げられる。ユーザーの品質認証を得て、将来的に本社工場から製造を全面的に移管する計画で、当初5人だったいわき工場の人線マンモグラフィなどに使われる。日本国内だけでなく、中国やインドなどを中心としてアジア地域での医療水準の向上に合わせ、今後の需要増加が予測されている。高付加価値製品である高純度セレンを収益の柱に据えたい考えだ。

また、医療分野と合わせて期待を込めるのが銅ーインジウムーセレン（CIS）系あるいは銅ーインジウムーガリウムーセレン（CIGS）系太陽電池。

現在単結晶シリコン系よりも発電効率で劣るものの、高効率化の技術開発が進む。シリコン系などが中心だった中国メーカーも、一部欧米のメーカーを買収するなどしてCIGS系太陽電池の開発に乗り出している。水野光男社長は「当社はセレン、ガリウム、インジウム、テルルなどを主力商品としており、CIGS系太陽電池が普及すれば追い風になる」と話す。インジウムなどは近年、主用途である液晶分野における最終製品の販売数量減少や省材料化の進展で需要が停滞傾向にある。事業体制を整え、新規用途の市場拡大をフォローする。

99.99%、6N）は主に、乳がん検診用のX線マンモグラフィなどに使われる。日本国内だけでなく、中国やインドなどを中心として

同社の製造する高純度セレン（純度99.9